

DCMX

本来C.I.やブランディングは、その企業が持つ哲学や概念を記号化し、
社内及び、消費者の方々を含めた社外の皆様に伝えていくものだと考えています。
つまり、今回のDCMXではその記号から
今後DoCoMoがどういう考え方で、DCMXを皆様のお役に立てられるのか、
社会的な価値をどこに持つのか、という見地からも考えられております。

X**X****x¹, X¹** /éks/ 名 (◎ **xs, x's, Xs, X's** /~iz/) 1 □

[具体的には □] エックス 〔英語アルファベットの第 24 字〕。 2 □ (連結したものの)第 24 番目(のもの)。 3 □ (ローマ数字の)10: XV [xv]=15 / XX [xx]=20 / XL [xl]=40 / XC [xc]=90.

x² /éks/ 名 □ (◎ **x's, xs** /~iz/) [通例 x の字体で]

〔数〕第 1 未知数 (cf. y², z²; a², b², c²).

x³ /éks/ 動 ◎ (**x-ed, x'd, xed** /ékst/; **x-ing, x'ing** /éksɪŋ/) 〔米〕 1 <...に>X の印をつける: x one's ballot 投票用紙に×印をつける (★ 日本の○に当たる)。 2 <...を>X の印で消す<out>.**X²** /éks/ 名 □ (◎ **X's, Xs** /~iz/) 1 X 字形(のもの)。

2 X の記号: a 字を書けない人の署名の代わり: put one's X on...に(署名代わりに)×印をつける。 b (地図・図表などの)特定の地点を示す印。 c 誤りを示す印。 d (手紙などの最後につける)キスの印。 3 未知数の人[もの]: Mr. X 某氏 / ⇒ X rav.

〔XENOPHOBIA+-I〕

xe-rox /zí(ə)raks

ロックス 〔乾式複写法〕

複写[コピー]。 — [

—]する。 〔ギリシャ語〕

Xho-sa /kóusa/

アフリカ共和国南東部

族の話す Bantu 語〕

xi /záɪ, ksái | sái, k

〔ギリシャ語アルファベットに当たる; ⇒ Greek〕

X-ing, x-ing /kɪ

用いて] =crossing.

-xion /-kʃən/ 〔

(★ 級り主に〔英〕;

のように -ction が inflexion.

DCMXは、DoCoMoのXを表しております。

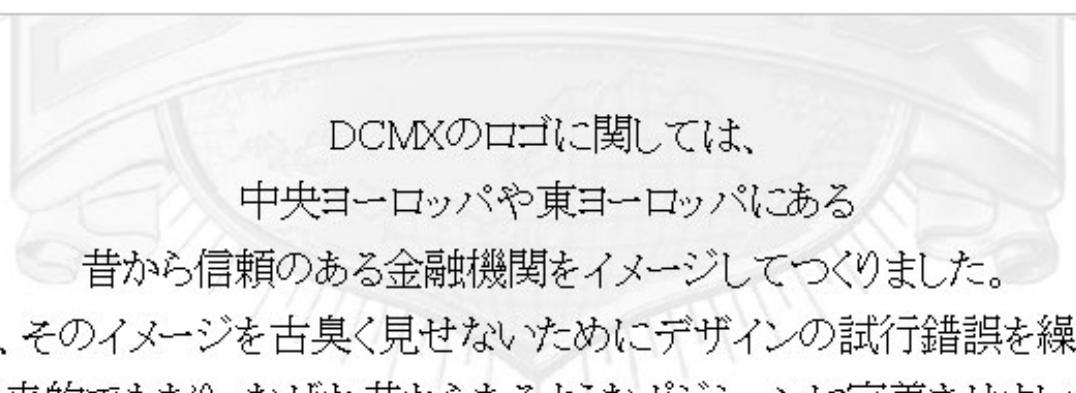
Xを辞書で引いてみます。すると…未知数という項目が出てきます。

つまり、DCMXはDoCoMoブランドがこれからクレジットという分野で

大きく羽ばたいていこうという意味から

未知数であるXという文字を選択しました。

DCMX



DCMXのロゴに関しては、
中央ヨーロッパや東ヨーロッパにある
昔から信頼のある金融機関をイメージしてつくりました。
しかし、そのイメージを古臭く見せないためにデザインの試行錯誤を繰り返し、
未来的でもあり、なぜか昔からあるようなポジションに定着させました。



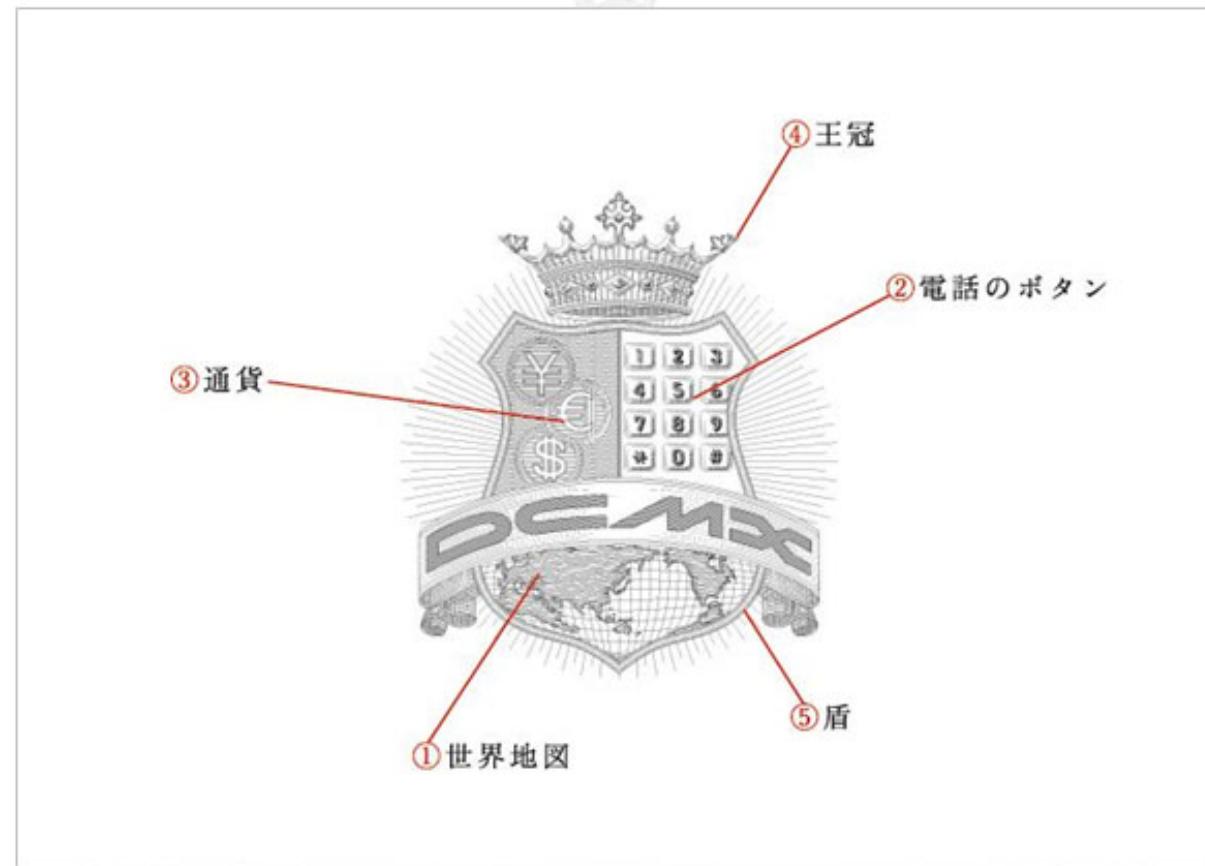
今回はロゴマークに加えてもうひとつシンボルマーク的なものを作成いたしました。

それがこのエンブレムです。

昨今のC.I.計画は可読性や視認性に重点が置かれ過ぎていて

皆一様に似たものになっている事に気が付きました。

この数々のマークの中にあっても埋もれないもの、そしてなおかつ信頼のあるものとして
紋章(エンブレム)という過去の技法を用いました。



通貨・電話・新しい世界への挑戦・そして信頼の証である王冠を使ってそのエンブレムを構成しました。

マークをシンプルにしていく潮流に逆らってデザインを進めていくうちに、複雑化することによってそのフォルムを単純化させることに成功いたしました。古くからあったような 新しくもあるような その部分に注力し、完成させました。



通貨・電話・新しい世界への挑戦・そして信頼の証である王冠を
使ってそのエンブレムを構成しました。

マークをシンプルにしていく潮流に逆らってデザインを進めていくうちに、
複雑化することによってそのフォルムを単純化させることに成功いたしました。
古くからあったような 新しくもあるような その部分に注力し、完成させました。